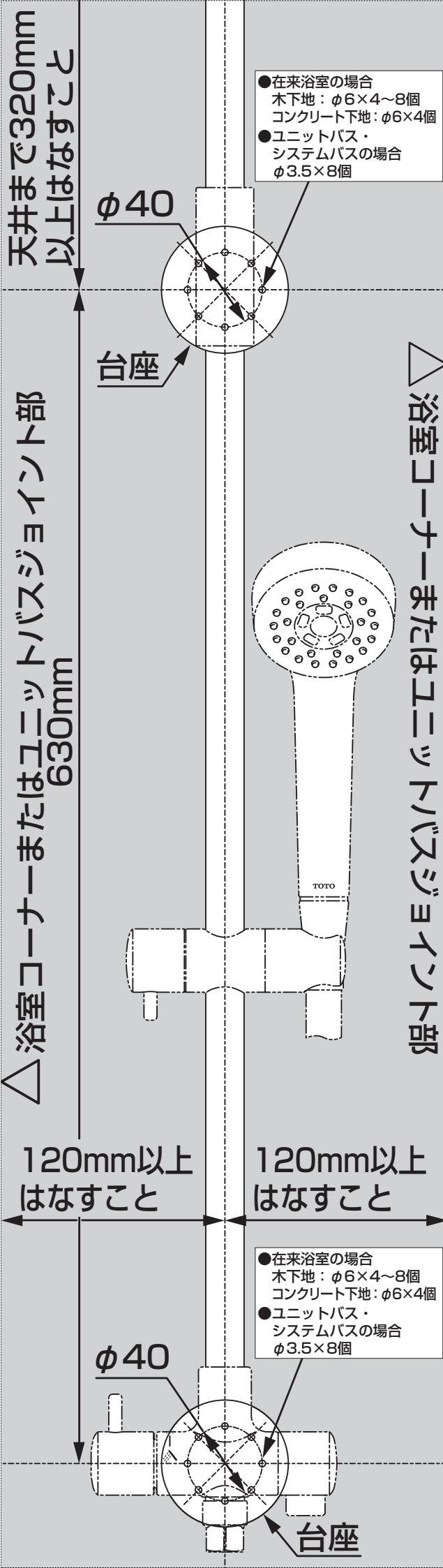


位置決めシート

同梱の「施工説明書」とあわせてご利用いただき、お客様のお好みの位置にシャワーバーを取り付けてください。

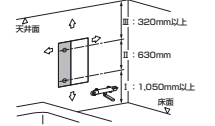


- 在来浴室の場合
木下地：φ6×4～8個
コンクリート下地：φ6×4個
- ユニットバス・システムバスの場合
φ3.5×8個

- 在来浴室の場合
木下地：φ6×4～8個
コンクリート下地：φ6×4個
- ユニットバス・システムバスの場合
φ3.5×8個

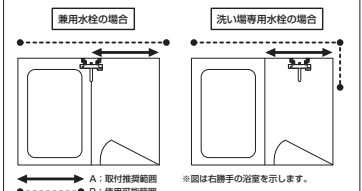
4-1 シャワーバーの位置決め

お客様とご相談のうえ、取付位置を決めてください。取付位置と、お好みの位置との取り合いと使い勝手感のため、「位置決めシート」も同梱しております。本説明書とあわせてご確認ください。位置決め、取付作業にお役立てください。（位置決めシートのおすすめ使用方法）



- 浴室内の位置決めシートをあて、シャワーバーの寸法を確認しながら、取り付ける位置を決める。（「位置決めシート」のグレーの範囲には、壁（タイルのジョイント部）1がからないように、また、周囲の器具（照明・鏡など）にからないように位置を決める）
①：ユニットバス・システムバス（の場合）
- 取り付ける位置が決まったら、上記のように、
①：床から1,050mm以上②
②：1から630mmの位置をけがけ（ただし②：320mm以上確保すること）
②：天井面から余裕があれば、②：320mm以上となるよう、お客様のお好みで高さを上げてもらい
- シャワーバー（切替本体・スライドバー・オーヘッド（ドラワー部））を仮組みし（本説明書⑥～⑧参照）、上記でけがいた位置に位置をあわせ、オーヘッドシャワーの可動範囲と使い勝手を確認する。
- 以上の作業で取付位置が決まったら、本説明書⑥～⑧に従い、下穴をあける。

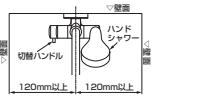
① 下図AまたはBの範囲でシャワーバーの取付位置を決める。



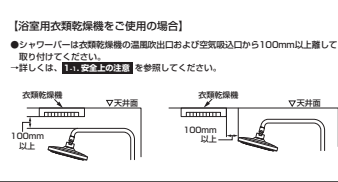
- シャワーバーは、水栓本体近くに取付けてください。水栓本体から離れすぎると、使い勝手が悪くなり、ホースにつまみやすくなります。事前にご確認ください。
- オーヘッドシャワーは左右に回して（鏡面）お好みの位置でお使いいただけますが、周囲の照明や壁などにぶつけないようご注意ください。
- ②下地のスペースを確保してください。
●天井面から30mm以上確保してください。天井面との間を指を挟むおそれがあります。
●シャワーバー中心から周囲463mm以上確保してください。シャワーバー可動時に壁面をぶつかるおそれがあります。

4-2 シャワーバーの位置決め（つづき）

●取付位置は浴室コーナーから120mm以上離してください。切替ハンドルやドラワーシャワーの使い勝手が悪くなる場合があります。

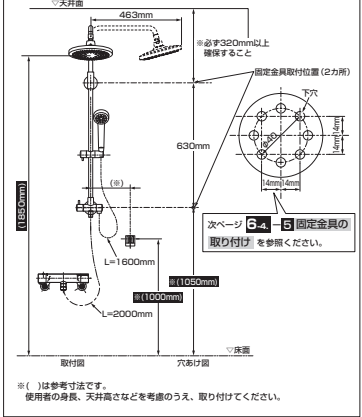


- ユニットバス・システムバス（の場合）、壁パネルのつなぎ目から120mm以上離してください。
- 浴室用衣類乾燥機をご使用の場合
●シャワーバーは衣類乾燥機の温風出口および空気吸込口から100mm以上離して取り付けてください。
-詳しくは、⑩⑪、安全上の注意を参照してください。



③ 取付位置を決め、穴あけ位置を決める。

下図の範囲でお好みの高さで設定してください。



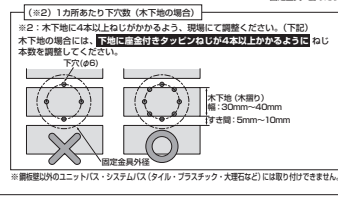
5-1 固定金具の取り付け

固定金具の取付方法は取付ける壁によって異なります。下記に従って取り付けてください。

- 正しいサイズのドリルをお使いください。下穴径が大きすぎると、芯線れを起こして正しい固定ができなくなります。また下穴径が小さすぎると、タイル割れをおそれおそれがあります。
- 各壁材に応じて、適切な材質のドリルを使用してください。
- 穴あけ後は、下穴にシール材を必ず充填してください。
- 下穴に穴、壁材に穴に正しいサイズのドリルを使用してください。
- 新築に取り付ける場合は、壁面に30mm以上の厚みのある補強材を柱または同柱に固定して、その補強材に取り付けてください。

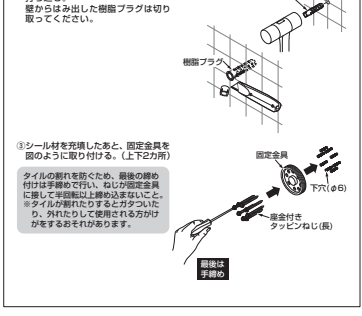
浴室壁材ごとの下穴径と必要寸法					
浴室壁材	下穴径 (mm)	深さ (mm)	穴数 (個)	使用し(後処理)	使用なし
在来工法浴室	木下地	20 タイル 厚さ約5mm	4-8 ②	要	壁面付キ タッピンねじ φ4.5×45 (長)
	コンクリート下地	50	4	不要	壁面付キ タッピンねじ φ4.5×20 (短)
システムバス ユニットバス (2.4mm以上)	φ3.5	- (真鍮)	8	不要	壁面付キ タッピンねじ φ4.5×20 (短)

※1：固定金具1個あたり



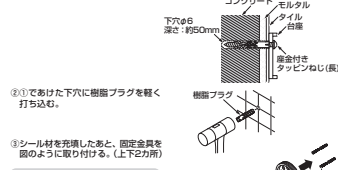
<在来工法浴室の場合>

- ①φ6mm・深さ20mmの下穴をあける。（上下とも4個）
前ページの表に照らし、上下とも木下地に同じ径45mm以上かきよめるよう、ねじの本数を調整してください。
●穴あけ後は、下穴にシール材を必ず充填してください。
（深さ20mmが目安です）
- ②穴あけた下穴に樹脂プラグを軽く打ち込む。
壁からはみ出した樹脂プラグは切り取ってください。

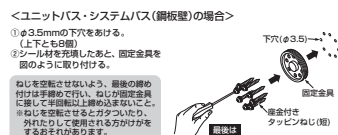


5-2 固定金具の取り付け（つづき）

①φ6mm・深さ50mmの下穴をあける。（上下とも4個）



- ③シール材を充填したあと、固定金具を壁のように取り付ける。（上下2か所）
タイルの割れを防ぐため、樹脂の締め付けは手締めで行い、ねじが固定金具に届いて半回転以上締め込まないこと。●タイルが割れたりするとガタついたり、外れたりして壁面が崩れるおそれがあります。



- ねじを空転させないよう、樹脂の締め付けは手締めで行い、ねじが固定金具に届いて半回転以上締め込まないこと。●ねじを空転させるとガタついたり、外れたりして壁面が崩れるおそれがあります。